

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第3回 有効高さ評価モデル分科会 (A1SC3) 議事録(案)

1.日時 2009年5月8日(金) 14:00~16:30

2.場所 (財)電力中央研究所 大手町ビル7階 第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 市川(副主査), 込山(幹事), 安達, 近藤, 山澤, 日高, 永井^(請),
館野, 大場, 永井^(請), 佐田, 福田, 鈴木, 沼田 (15名)

(代理委員) 前山(筑紫代理), 綿田(安田代理) (2名)

(欠席委員) なし

(常時参加者) なし

(傍聴者) 樋口, 上杉 (2名)

4.配布資料

A1SC3-1 前回議事録(案)

A1SC3-2 有効高さ評価モデル分科会 全体スケジュール(案) Rev2

A1SC3-3 数値モデルの適用範囲指定 風洞実験実施基準との相違について

A1SC3-4 流体力学モデル数値シミュレーションモデルで評価した有効高さの許容誤差について

5.議事録

(1)出席委員の確認

込山幹事により 17 名の委員中、代理委員を含めて 17 名の委員の出席があり、定足数(12 名以上)を満足していることが確認された。

(2)人事について

込山幹事より、人事異動等に伴い所属変更等があった委員の紹介があった。また、委員名簿に不備がある場合には、幹事まで連絡して欲しいとの依頼があった。

(3)前回議事録の確認

込山幹事より A1SC3-1 に基づき第 2 回有効高さ評価モデル分科会 (A1SC 2) 議事録(案)が説明され、コメントが無く了承された。

(4)検討スケジュールの修正について

込山幹事より A1SC3-2 に基づき検討スケジュールの修正について説明があった。

主な修正内容は、実績の反映及び「基盤・応用技術専門部会」の予定であり、全体スケジュールに大きな変更は無く、了承された。

(5)数値モデルの適用範囲について

込山幹事及び佐田委員より A1SC3-3 に基づき、第 2 回分科会にて課題として挙げられた箇所について、修正等の説明があった。新たな主な課題は以下のとおり。

- ・ 建屋そのものの後方の渦を再現するためには数格子以上が必要。そのため、今後、建屋の解像度の考え方を示すこと。
- ・ 乱流モデルは気流計算モデルの一部であるが、どのような乱流モデルであるか等の内容が分かるように記載すること（基準内の定義等において）。
- ・ 相違表の記載内容は今後、実施基準を取りまとめる際に全体を良く確認すること（例えば、中立時への適用に限られることは適用範囲で示すこと等）

(6)数値モデルの選択基準について

沼田委員より、A1SC3-4 に基づき有効高さの評価に用いる数値シミュレーションモデルの検証方法について、説明があった。

「窒素酸化物総量規制マニュアル」及び「EU 基準 (COST732)」を参考に、風洞実験と数値モデルの地表煙軸濃度比を比較する手法を提案したが、有効高さでの比較の方が分かり易いこと、「窒素酸化物総量規制マニュアル」はそもそも野外観測との比較のための検証方法であるとの意見があり、再度検討することとした。また、検証を有効高さで行うか、気象データまで考慮した線量で行うかも検討することとした。

(7)その他・今後の予定

次回第 4 回分科会を 6 月 26 日(金)に開催することとした。

以上